

No.22
2023.9.20

発行：気仙沼市医師会

臨床検査センター検査室

検査室からの お知らせ

今回のテーマ

梅毒検査



気仙沼市観光キャラクター
「海の子 ホヤぼーや」

いつも当臨床検査センターをご利用いただき誠にありがとうございます。

9月に入っても猛暑日が続いておりますが、気仙沼港には「サンマ」の初水揚げがあり、秋の訪れを感じる今日この頃です。

さて、今回のテーマは「梅毒」です。国立感染症研究所の統計¹⁾によると、2013年から2022年の10年間で梅毒届出数は10倍に急増しており、最近の流行は若年者に多く見られるのが特徴です。

当センターのTP抗体検査は、CLEIA（化学発光酵素免疫測定）法を採用しており、従来のTPHA法やTPPA法と比較して、TP抗体に対する感度が高いため、早期梅毒診断にご利用いただけます。

性感染症 診断・治療ガイドライン2020では、TP抗体自動化試薬を用いることによってTPに対するIgM抗体を感染後極めて早期から検出可能になったとし、解釈の変更・改訂が行われています。

また、RPR（rapid plasma regain）法を併用することにより、梅毒感染の判定に有用となります。

TP 抗体

NO.79345 TP 抗体定性
NO.79346 TP 抗体定量
血清 0.5mL

RPR (STS 定性)

NO.905 RPR
血清 0.5mL

血清学的検査の解釈（性感染症 診断・治療ガイドライン2020）²⁾

RPR（自動化法）	TP 抗体（自動化法）	
(-)	(-)	・非感染 ・感染後極めて早期（2-3週以内）※
(+)	(-)	・生物学的偽陽性反応
(+)	(+)	・梅毒感染
(-)	(+)	・梅毒治癒後（治療の必要なし） ・感染後極めて早期（2-4週後）

※感染直後の「ウィンドウ期」ではTP抗体価の上昇がみられない可能性があるため4週間後に再検査する

参考文献：1) 国立感染症研究所感染症疫学センター・最近第一部

2) 日本性感染症学会、性感染症 診断・治療ガイドライン2020 梅毒の頁

3) 梅毒診療ガイド（第2版）